

2026年度
2年生 後期シラバス
(看護学科)

実の力を、学ぶ学校



学校法人
日翔学園

開成情報看護専門学校

＜ シラバス＞

授業科目		生命倫理	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	谷木 利勝	実務経験のある教員	—
学習目的		生命という言葉が持つ多様性・多重性を理解でき、生命に関わるということの意味を思考できる				
学習目標		1. 「自分が生きている」という経験の実感について述べることができる。 2. 今そこにあるいのちと向き合い、ケアを行える姿勢を身につけることができる。 3. 自分自身の価値観・世界観を自覚できる。				
授 業 計 画	1	生命倫理を問う姿勢について				
	2	生殖医療によって問われる問題				
	3	優生思想を考える				
	4	小児脳死・臓器移植について				
	5	人間の尊厳とは				
	6	安楽死・尊厳死が問いかけるもの、死をめぐる自己決定と事前指示				
	7	私の価値観、社会の価値観(いのちを考える)				
	8	まとめ・試験				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
授業方法		講義、演習				
テキスト・参考文献		参考図書 木村利人他「ケーススタディいのちと向き合う看護と倫理—受精から終末期まで—」人間と歴史社2010 吉森保「ライフサイエンス、最先端の生命科学を私達は何も知らない」日経BP2020 ヴィクトル フランクル「夜と霧」みすず書房(池田香代子訳)				
評価方法		出席状況、授業参加状況、課題、筆記試験				
履修上の注意事項						

＜ シラバス＞

授業科目		障がい児・者支援論	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	岩城 慎人	実務経験のある教員	—
学習目的		1. 障害のある人の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護の需要や支援のあり方を理解する。 2. 知的障害、発達障害についての実態、支援のあり方を理解する。 3. 障害者支援の歴史的変遷・発展過程について理解する。				
学習目標		1. 障害のある人の生活上の困難さと背景要因を理解できる。 2. 知的障害、発達障害児の教育と支援の特徴を理解できる。 3. 特別支援教育の歴史的変遷を理解できる。 4. 障害のある人の発達を促し、暮らしを支える援助について看護の視点で考え、そのことについて説明できる。				
授 業 計 画	1	障がい概念と特性				
	2	障害者の生活実態と社会環境				
	3	身体的障害とは、施設と自宅での暮らしと援助				
	4	知的障害とは、施設と自宅での暮らしと援助				
	5	発達障害とは、日常生活指導・遊びの指導				
	6	特別支援教育とは				
	7	関連する専門職と連携支援の実際				
	8	まとめ、障がいのある人に関わる新聞などの記事をまとめディスカッション				
授業方法		講義、演習				
テキスト・参考文献		講師が用意する資料				
評価方法		出席状況、授業・演習参加態度、レポート、筆記試験				
履修上の注意事項						

<シラバス>

授業科目		健康支援論	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	小笠原 須奈子	実務経験のある教員	○
学習目的		ライフステージ各期における健康課題と健康の維持・増進、疾病の予防につながる支援・教育方法について理解する。				
学習目標		1. ライフステージ各期の健康課題を考えることができる。 2. 健康の保持・増進、疾病の予防につながる援助について説明できる。 3. その人らしい生活を送れるための援助について説明できる。				
授 業 計 画	1	健康の考え方				
	2	ライフステージと健康課題				
	3	乳幼児期の健康課題と健康管理				
	4	学童期・思春期の健康課題と健康管理				
	5	成人期の健康課題と健康管理				
	6	老年期の健康課題と健康管理				
	7	精神障害のある人の健康管理				
	8	健康支援・教育の方法				
授業方法		講義、演習				
テキスト・参考文献		新体系看護学全書「別巻 ヘルスプロモーション」メジカルフレンド社				
評価方法		出席状況、授業態度、課題(内容、提出状況)、試験				
履修上の注意事項						

<シラバス>

授業科目		関係法規	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	大沢 たか子	実務経験のある教員	○
学習目的		保健医療に関係する主な法規とその概要を理解する。				
学習目標		看護を行う上で必要な法令と倫理が理解できる。				
授 業 計 画	1	法の概念と保健師助産師看護師法				
	2	医療法・医療の資格				
	3	医療保障制度・医療保険法				
	4	保健衛生法、高齢者に関する法律				
	5	薬務法				
	6	福祉法				
	7	労働法				
	8	まとめ				
授業方法		講義				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 専門基礎分野 「看護関係法令―健康支援と社会保障制度―」（医学書院）				
評価方法		授業態度、出席状況、試験				
備考						

＜ シラバス ＞

授業科目		臨床推論	授業方法	講義・演習	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	小笠原 須奈子	実務経験のある教員	○
学習目的		フィジカルアセスメントの技術を用いて患者の健康に関するニーズや問題を分析することができる。看護介入へつなげるための臨床推論が実施できる。				
学習目標		1. 臨床推論とは何か理解できる(臨床推論の目的・必要性・思考様式、臨床判断との違い) 2. 臨床推論の実際を知ることができる 3. 臨床推論が実施できる(紙上、モデルによる演習) 4. 臨床推論における自身の課題が言える。				
授 業 計 画	1	臨床推論とは何か				<講義>
	2	臨床推論の実際(発熱)				<講義>
	3	臨床推論の実際(呼吸困難)				<講義>
	4	臨床推論の実際(低血圧)				<講義>
	5	臨床推論の実際(高血圧)				<講義>
	6	臨床推論の実際(浮腫)				<講義>
	7	臨床推論の実際(手足のしびれ・麻痺)				<講義>
	8	臨床推論の実際(高齢者ケア)				<講義>
	9	臨床推論の実際(DVD気づくトレーニング)				<講義>
	10	臨床推論の演習(紙上)				<講義>
	11	臨床推論の演習				<演習>
	12	臨床推論の演習(モデル)				<演習>
	13	臨床推論の演習(モデル)				<演習>
	14	臨床推論の演習(モデル)				<演習>
	15	まとめ				
授業方法		講義、演習				
テキスト・参考文献		小澤知子:アセスメントに自信がつく 臨床推論入門、第1版、メディカ出版				
評価方法		出席、演習状況、レポート、筆記試験				
履修上の注意事項		授業が終了しない場合は、補習の可能性あり				

<シラバス>

授業科目		精神看護学方法論Ⅰ	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	小笠原 須奈子	実務経験のある教員	○
学習目的		精神医学・医療の基礎知識を学び、主な精神疾患、症状、検査、治療について理解する。				
学習目標		1. それぞれの疾病・障害の概念を理解する。 2. 疾病・障害の特徴、診断基準、治療方法を理解する。				
授 業 計 画	1	統合失調症				
	2	気分[感情]障害				
	3	不安症候群・ストレス関連障害				
	4	認知症・せん妄				
	5	発達障害・人格障害				
	6	依存症・摂食障害				
	7	総まとめ				
授業方法		講義、課題、				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 専門分野「精神看護学」〔1〕精神看護の基盤 医学書院				
評価方法		出席状況、試験、課題レポート、授業態度等				
履修上の注意事項						

<シラバス>

授業科目		精神看護学方法論Ⅱ	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	小笠原 須奈子	実務経験のある教員	○
学習目的		疾病や障害、ライフステージに合わせた看護のあり方を理解する。また、健康を維持し、回復する時にどのようなかかわりが必要なのか理解する。				
学習目標		1. 精神看護に必要な援助の方法や考え方を学ぶ。 2. 精神看護における看護過程の展開方法を学ぶ。				
授 業 計 画	1	精神看護の基礎・ケアの人間関係				
	2	回復を支援する				
	3	地域におけるケアと支援①				
	4	地域におけるケアと支援②				
	5	入院治療の意味				
	6	身体をケアする				
	7	安全を守る(リスクマネジメント)				
	8	医療の場におけるメンタルヘルス・災害時のメンタルヘルス				
	9	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス				
	10	オレムの看護理論による看護の展開①				
	11	オレムの看護理論による看護の展開②				
	12	オレムの看護理論による看護の展開③				
	13	グループワーク				
	14	発表・まとめ				
授業方法		講義、グループワーク、				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 専門分野「精神看護学」〔2〕 精神看護の展開 医学書院				
評価方法		出席状況、試験、課題レポート、授業態度等				
履修上の注意事項						

< シラバス >

授業科目		周手術期看護Ⅰ	授業方法	講義・演習	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	大沢 たか子	実務経験のある教員	○
学習目的		急激な身体侵襲を受け、生体反応が著明に現れる時期の特徴を理解し、対象者の治療環境や疾患が及ぼす身体的・心理的变化の特徴や治療過程を踏まえ、回復期に移行する段階に即した看護を学ぶ。				
学習目標		1. 周手術期にある手術侵襲理論・生体反応が理解できる。 2. 手術療法を受ける対象者が理解でき、周手術期における看護師の役割が理解できる。 3. 周手術期の術前・術中・術後の看護及び安全管理が理解できる。 3. 各領域の手術の特殊性が理解でき、状態に応じた看護が理解できる。				
授 業 計 画	1	周術期の安全管理と生体侵襲及び麻酔について			講義	
	2	周術期看護の特徴(術前看護)			講義	
	3	周術期看護(の特徴術中看護) オ)			講義(ビデ	
	4	周術期看護の特徴(術後看護) オ)			講義(ビデ	
	5	手術後の合併症予防に向けた看護			講義	
	6	術前呼吸訓練及び術後早期離床			演習	
	7	手術を受ける小児とその家族に対する看護			講義	
	8	手術を受ける精神疾患を持った患者の看護			講義	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
授業方法		講義、演習、ビデオ学習				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院				
評価方法		試験、態度(授業・演習)、出席状況、レポート				
履修上の注意事項		授業の資料は事前学習して臨むこと				

＜ シラバス ＞

授業科目		周手術期看護Ⅱ	授業方法	講義・演習	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	小笠原 須奈子	実務経験のある教員	○
学習目的		急激な身体侵襲を受け、生体反応が著明に現れる時期の特徴を理解し、対象者の治療環境や疾患が及ぼす身体的・心理的变化の特徴や治療過程を踏まえ、回復期に移行する段階に即した看護を学ぶ。				
学習目標		1. 周手術期にある手術侵襲理論・生体反応が理解できる。 2. 手術療法を受ける対象者が理解でき、周手術期における看護師の役割が理解できる。 3. 周手術期の術前・術中・術後の看護及び安全管理が理解できる。 3. 各領域の手術の特殊性が理解でき、状態に応じた看護が理解できる。				
授 業 計 画	1	開胸手術患者の看護(肺がん)				(講義)
	2	開腹手術患者の看護(胃がん)				(講義)
	3	開胸・開腹手術患者の看護(食道がん)				(講義)
	4	胸部手術患者の看護(乳がん)				(講義)
	5	看護過程の展開(肺切除術を受けた高齢患者の看護)				(事例検討)
	6	看護過程の展開(胃全摘手術を受けた成人患者の看護)				(事例検討)
	7	看護過程の展開(乳房全切除術患者の看護)				(事例検討)
	8	事例発表				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
授業方法		講義、演習、ビデオ学習				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院				
評価方法		試験、態度(授業・演習)、グループ事例検討、出席状況、必要時課題レポート				
履修上の注意事項		授業の資料は事前学習して臨むこと				

＜ シラバス ＞

授業科目		終末期と看護	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	刈谷 真爾/山本 佳子	実務経験のある教員	○
学習目的		終末期にある対象及び家族のニーズを知り、その状況に応じた看護の役割と方法を学ぶ。				
学習目標		1. 終末期の特徴が理解できる。 2. 終末期にある患者とその家族に起こりやすい健康問題と看護の特徴が理解できる。 3. 終末期にある患者の事例を通して、終末期の看護について考える。				
授 業 計 画	1	ターミナルケア・緩和ケアの考え方			刈谷	
	2	症状メカニズムとマネジメント				
	3	薬剤の活用と副作用への対処				
	4	小児における終末期の特徴、子どもと家族の死の捉え方と看取りの看護			山本	
	5	成人期における終末期の特徴、死の捉え方と看取りの看護				
	6	老年期における終末期の特徴、死の捉え方と看取りの看護				
	7	グリーフケア、死後の処置				
	8	医療従事者のストレスと対処法、感情労働について				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
授業方法		講義、演習				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院				
評価方法		授業態度、出席、筆記試験、グループワークへの取り組み				
履修上の注意事項		授業の進行状況により補講の可能性あり				

シラバス

授業科目	家族看護論	授業方法	講義・演習	単位	1単位
開講時期	2年次後期	担当教員	松本 佳代	実務経験のある教員	○
学習目的	社会的存在としての個人を理解し、家族の機能・役割について理解する。				
学習目標	1. 家族や社会が人間にどのような影響を与え、成長していくのかを理解し、人間を社会的存在として捉えることを学習する。 2. 家族を単位として捉えた看護の対象を理解する。 3. 家族看護の基盤となる家族理論について理解する。				
授 業 計 画	1	家族とは、家族の持つ機能、家族看護学の発展、家族看護の定義－1－			
	2	家族とは、家族の持つ機能、家族看護学の発展、家族看護の定義－2－			
	3	家族を理解するための家族エンパワメントとジェノグラム・エコマップ			
	4	家族を理解するための家族セルフケア理論			
	5	家族を理解するための家族システム理論			
	6	家族を理解するための家族発達理論			
	7	家族を理解するための家族役割理論（事例あり、GW）			
	8	家族を理解するためのストレス対処理論（事例あり、GW）			
	9	家族看護過程1（成人）			
	10	家族看護過程2（成人）			
	11	家族看護過程3（老年）			
	12	家族看護過程4（老年）			
	13	家族看護過程5（小児）			
	14	家族看護過程6（精神）			
	15	試験			
授業方法	講義、グループワーク				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院				
評価方法	出席状況、授業・グループワーク参加姿勢、試験（課題レポート）				
履修上の注意事項					

<シラバス>

授業科目		看護理論	授業方法	講義・演習	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	大沢 たか子	実務経験のある教員	○
学習目的		看護のみかた、考え方の基盤として、代表的な看護理論家の理論内容について学習し、看護実践への活用方法を理解する。				
学習目標		看護の枠組みと方向性を導く主要な看護理論や患者理解のための看護理論など、さまざまな看護理論をグループ学習を活用しながら理解を深め、看護独自の機能を見出し、看護実践と理論を結びつける基礎的な力を養うことができる。 自らの看護に対する見方・考え方を自分の好む理論家で表現する。				
授 業 計 画	1	看護理論についての基本的な理解(1)				
	2	看護理論についての基本的な理解(2)				
	3	働きかけ論的な看護理論「バージニア・ヘンダーソン」				
	4	働きかけ論的な看護理論「バージニア・ヘンダーソン」				
	5	働きかけ論的な看護理論「オレム」				
	6	働きかけ論的な看護理論「オレム」				
	7	人間関係論的な看護理論「トラベルビー」				
	8	人間関係論的な看護理論「トラベルビー」				
	9	グループワーク看護理論家の理論を選択、項目に沿ってまとめる(レポート、スライド)				
	10	グループワーク看護理論家の理論を選択、項目に沿ってまとめる(レポート、スライド)				
	11	グループワーク看護理論家の理論を選択、項目に沿ってまとめる(レポート、スライド)				
	12	グループワーク看護理論家の理論を選択、項目に沿ってまとめる(レポート、スライド)				
	13	グループワークの成果発表に向けた資料の整理・検討				
	14	グループワークでの成果を発表				
	15	グループワークでの成果を発表				
授業方法		講義、演習(グループ学習)				
テキスト・参考文献		黒田裕子:「やさしく学ぶ看護理論」(日総研出版)、 筒井真優美:「看護理論一看護理論21の理解と実践への応用」(南江堂)				
評価方法		出席状況、授業態度、授業課題レポート、グループの理論検討内容、 グループワーク参加態度、理論のプレゼンテーション、最終課題レポート				
備考						

＜ シラバス ＞

授業科目		地域・在宅看護援助論Ⅱ	授業方法	講義、演習	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	山本 佳子	実務経験のある教員	○
学習目的		地域・在宅看護ケアの対象者と提供方法について理解する。				
学習目標		1. 地域で生活している看護ケア対象者とその家族の特徴が説明できる。 2. 地域で安心して暮らすための社会制度・社会資源・関係機関の役割や機能を理解できる。 3. 地域・在宅看護における様々な倫理的課題と権利擁護を理解できる。 4. 地域・在宅看護における様々な連携・協働について理解できる。 5. 事例の対象に応じたレクリエーションを考え実施できる。				
授 業 計 画	1	地域で看護ケアを必要としている対象者について				
	2	在宅における健康危機管理について				
	3	地域で安心して暮らせるための社会制度				
	4	地域で安心して暮らせるための社会資源の活用と看護師の役割(高齢者・障害者・子ども)				
	5	訪問時のプロセス、マナーについて				
	6	地域看護ケアにおける関連機関・関係職種との連携・協働				
	7	地域看護ケアにおける関連機関・関係職種との連携・協働				
	8	余暇(レクリエーション)支援法				
授業方法		講義、グループワーク、演習				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 専門分野「地域・在宅看護」[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野「地域・在宅看護」[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院				
評価方法		出席状況、授業・グループワーク・演習への参加内容と工夫・態度、課題、試験				
履修上の注意事項						

＜ シラバス ＞

授業科目		地域・在宅看護援助技術Ⅱ	授業方法	講義、演習	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	山本 佳子	実務経験のある教員	○
学習目的		在宅看護に必要な日常生活看護技術と対象の状態や状況に応じた看護が理解できる。				
学習目標		1. 生活を支えるための在宅看護基礎技術を身につける。 2. 生活援助用具とその利用方法を理解する。 3. 学内演習で状態や状況に応じた技術を用いることができる。				
授 業 計 画	1	在宅看護における基本技術(コミュニケーション技術、訪問時のマナー、観察の技術)				
	2	日常生活の援助技術(食事・栄養の援助)				
	3	日常生活の援助技術(清潔の援助)				
	4	日常生活の援助技術(移動の援助)				
	5	日常生活の援助技術(排泄の援助)				
	6	日常生活の援助技術演習				
	7	日常生活の援助技術演習				
	8	認知機能のアセスメント法と援助技術(認知機能に障がいをもつ在宅療養者への看護)				
授業方法		講義、グループワーク、演習				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 専門分野「地域・在宅看護」〔2〕 地域・在宅看護の実践 医学書院				
評価方法		出席状況、授業・グループワーク・演習への参加内容と工夫・態度、課題、試験				
履修上の注意事項						

＜ シラバス ＞

授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅲ	授業方法	講義、演習	単位	1単位
開講時期	2年次後期	担当教員	山本 佳子	実務経験のある教員	○
学習目的	在宅における看護過程の展開を理解する。				
学習目標	事例の状況に応じて、在宅看護における一連の看護過程が展開できる基礎能力を修得する。 訪問時のマナーを理解し実践できる。				
授 業 計 画	1	対象理解とアセスメントの視点(事例1)			
	2	全体像の把握			
	3	看護上の課題の明確化			
	4	看護計画立案(自立・自律支援・社会資源の活用と調整)			
	5	実施・評価(演習)			
	6	実施・評価(演習)			
	7	対象理解とアセスメントの視点(事例2)			
	8	全体像の把握			
	9	看護上の課題の明確化			
	10	看護計画立案(自立・自律支援・社会資源の活用と調整)			
	11	実施・評価(演習)			
	12	実施・評価(演習)			
	13	訪問時のマナーについて			
	14	介護用品の創作			
	15	振り返り、まとめ			
授業方法	講義、グループワーク、演習				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 専門分野「地域・在宅看護」[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野「地域・在宅看護」[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院				
評価方法	出席状況、授業・グループワーク・演習への参加状態、提出物・演習シート・作成した介護用品の内容				
履修上の注意事項					

< シラバス >

科目区分		専門分野	科目名	回復期看護論	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	戸梶 美香	実務経験のある教員	○
学習目的		急性期治療を終え、ADL向上や在宅復帰・社会復帰を目指す患者・家族に対する看護について学ぶ。多職種連携や生活再構築の支援、セルフケアの向上を支援するための技術と理論を習得する。				
学習目標		1. リハビリテーション看護の考え方が理解できる 2. 回復期にある対象と家族の特徴が理解できる 3. 回復期における生活の再構築の支援について理解できる 4. 身体機能障がい、生活機能障がい対象者がもつ機能が最大限に発揮できる看護援助を考えることができる				
授業計画	1	回復期看護の概念と対象、障がい受容のプロセス				
	2	回復期における生活再構築の理論				
	3	チーム医療と多職種連携				
	4	回復期看護アセスメント～FIMやBIの活用				
	5	日常生活動作支援：移動・移乗				
	6	日常生活動作支援：食事・摂食嚥下				
	7	日常生活動作支援：排泄				
	8	日常生活動作支援：清潔・整容				
	9	疾患・障がい別の看護①脳血管障害				
	10	疾患・障がい別の看護②運動期疾患（大腿骨近位部骨折）				
	11	疾患・障がい別の看護③高次脳機能障がいと高齢者の心理				
	12	家族支援とケアギバーのメンタルヘルス				
	13	在宅復帰・退院支援と社会資源				
	14	事例展開（グループワーク）				
	15	試験				
授業方法		講義、グループワーク				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 専門分野「成人看護学」〔1〕 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院				
評価方法		筆記試験60%、レポート30%、受講姿勢10%				
履修上の注意事項		授業の資料は事前に自己学習しておくこと				

＜ シラバス ＞

授業科目		老年看護学方法論Ⅱ	授業方法	講義・演習	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	松本 佳代	実務経験のある教員	○
学習目的		老年の特徴を踏まえ、疾病・障がいを持つ老年に対する状況・症状別看護の視点と予防を重視した看護の基本を学ぶ。				
学習目標		1. 疾病・障害を持つ老年の特徴について理解できる。 2. 高齢患者の状況別、症状別看護の視点と看護の基本を理解できる。 3. 事例を通して、老年期にある対象の看護過程を展開できる。				
授 業 計 画	1	生活・療養の場における看護について(老年看護の展開における考え方)				
	2	生活・療養の場における看護について(生活行動情報の着眼点、「ふくよか」ととらえる視点)				
	3	呼吸器疾患と看護				
	4	肺炎患者の看護過程の展開				
	5	肺炎患者の看護過程の展開と発表				
	6	認知症の看護				
	7	認知症患者の看護過程の展開				
	8	認知症患者の看護過程の展開・発表				
	9	運動器系疾患の看護				
	10	大腿骨頸部/転子部骨折患者の看護過程の展開				
	11	大腿骨頸部/転子部骨折患者の看護過程の展開・発表				
	12	高齢者に特有の疾患と看護(精神・神経疾患と看護)				
	13	パーキンソン病高齢者の看護過程の展開				
	14	パーキンソン病高齢者の看護過程の展開・発表				
	15	まとめ				
授業方法		講義、グループワーク、看護過程の展開				
テキスト・参考文献		山田律子ら編:生活機能からみた老年看護過程 第4版 医学書院 系統看護学講座「老年看護学」:医学書院 (電子テキスト) 系統看護学講座「老年看護 病態・疾患論」:医学書院 (電子テキスト)				
評価方法		出席状況、授業態度、課題(看護計画の立案)の内容、筆記試験				
履修上の注意事項		老年看護学総論、老年看護学方法論Ⅰ、各疾患について復習をしておくこと				

< シラバス >

授業科目		小児看護学方法論Ⅱ	授業方法	講義・演習	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	戸梶 美香	実務経験のある教員	○
学習目的		小児の成長発達段階の特徴と健全な成長・発達を理解し、発達に適した生活ができるための方法を理解する 健康障害を持つ子どもの生活行動への援助方法、症状緩和の援助方法など、小児看護技術特殊技術に関する知識や方法を学ぶ				
学習目標		1. 実習や国家試験で必須となる小児の主要疾患の病態生理を説明できる。 2. 発達段階の特性をふまえ、主要疾患をもつ子どもと家族の看護過程を展開できる。 3. 検査・処置におけるプレパレーションや、小児特有の安全・苦痛緩和の技術を理解する。				
授 業 計 画	1	小児看護の看護過程の特徴と情報収集				
	2	入院・検査・処置が子どもと家族に及ぼす影響とプレパレーション				
	3	急性期呼吸器感染症の看護過程				
	4	乳幼児嘔吐下痢証と脱水のアセスメント				
	5	急性期事例の看護過程展開(演習)				
	6	川崎病の病態と急性期の看護過程				
	7	気管支喘息の発作時および慢性期の看護過程				
	8	川崎病または気管支ぜんそくの事例展開(演習)				
	9	先天性心疾患の病態生理と看護過程				
	10	ネフローゼ症候群・糸球体腎炎の看護過程				
	11	先天性心疾患またはネフローゼ症候群の看護過程展開(演習)				
	12	小児のけいれん発作と神経・発達障害の看護				
	13	医療的ケア児の在宅移行支援と看護過程				
	14	小児緩和ケアの看護過程と全体のまとめ				
	15	試験				
授業方法		講義、グループワーク、演習				
テキスト・参考文献		系統看護学講座「小児看護学概論/小児臨床看護総論」「小児臨床看護学各論」 医学書院 参考文献:「小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助」 南江堂ほか				
評価方法		事例に基づく看護過程展開レポート25%、演習20%、試験50%、ミニテスト5%				
履修上の注意事項		授業の進捗状況に応じて、授業内容変更あり				

く シラバス

授業科目		母性看護学方法論Ⅱ	授業方法	講義・演習	単位	1単位
開講時期		2年次後期	担当教員	北村 明子	実務経験のある教員	—
学習目的		母性看護の特性を理解し、妊娠・分娩・産褥期にある対象及び新生児のアセスメントに必要な知識と技術を学ぶ。正常な経過をたどっている妊娠・分娩産褥期にある対象及び新生児の健康状態を保持増進させるための看護実践に必要な知識を学ぶ。また、妊娠・分娩・産褥期にある対象及び新生児における正常からの逸脱、逸脱を予防する看護実践、逸脱時の看護実践に必要な知識を学ぶ。				
学習目標		1. 産褥及び新生児の生理的特徴と健康問題について理解する 2. 産褥及び新生児の健康の保持促進のための看護を理解する 3. 産褥期及び新生児に起こりうる正常からの逸脱とその看護について理解する 4. 産褥及び新生児看護に必要な技術を理解する				
授 業 計 画	1	産褥経過のアセスメントに必要な知識				
	2	産褥経過のアセスメントに必要な知識と技術				
	3	産褥期のアセスメント・産褥期のニーズ・健康課題と看護				
	4	産褥期のニーズ・健康課題と看護				
	5	産褥期のニーズ・健康課題と看護健康課題と看護(沐浴・妊婦体操その他)実習衣で参加、実習室で実施				
	6	演習(沐浴)				
	7	産褥期に起こり得る正常からの逸脱				
	8	新生児のアセスメントに必要な知識				
	9	新生児のアセスメントに必要な知識				
	10	新生児の看護				
	11	新生児の観察と計測演習の準備(グループワーク)				
	12	演習(新生児の観察と計測)				
	13	新生児に起こりうる正常からの逸脱				
	14	新生児に起こりうる正常からの逸脱				
	15	まとめ、試験				
授業方法		講義、演習				
テキスト・参考文献		系統看護学講座 専門分野「母性看護学」〔2〕母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅱ(周産期各論) 医歯薬出版				
評価方法		出席状況 試験60点 提出物40点 提出物について ★実習衣のポケットに入る大きさの参考書を作成する。(ノートでもカードでもよい)				
履修上の注意事項						

<シラバス>

授業科目	急性期看護学実習	授業方法	実習	単位	2単位
開講時期	2年次後期	担当教員	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	急性期状態にある人の発達段階の特徴、及び急性期・周手術期にある患者の身体的・心理的・社会的状況を理解し、患者の人としての尊厳を尊重しながら健康回復に向けて看護展開できる基礎的能力及びその家族の看護援助を学ぶ。				
学習目標	1. 急性期・周手術期にある患者の状態を理解し、経過に応じた看護援助が理解できる。 2. 患者の情報分析をもとに、患者の持つ複数の課題抽出と課題の優先順位が理解でき、課題解決に向けた看護が実践でき、評価できる。 3. 急性期医療におけるチーム医療と看護師および他の職種の果たす役割が理解できる。 4. 患者の退院に向け、患者に必要な援助および社会資源活用の必要性が理解できる。 5. 患者の看護を通して自己の看護観を深め、自己洞察できる。				
授業計画	<2単位 90時間 9日間> 学内実習:事前オリエンテーション 施設の説明、留意事項、事前レポート作成、受け持ち患者の病態などを含む自己学習 事前学習 1 成人期・老年期における発達段階の特徴 2 急性期患者のフィジカルアセスメント(ショック・意識障害・呼吸困難・疼痛) 3 術前検査(血液検査・呼吸機能検査・画像検査など) 4 術前オリエンテーション(呼吸訓練・術前処置など) 5 全身麻酔・腰椎麻酔・局所麻酔それぞれの合併症 6 麻酔薬の種類と麻酔薬の作用・副作用 7 手術中・手術後に患者に装着される機器・チューブ・ドレーンの種類と目的 8 手術侵襲による身体的影響と術後合併症				
	実習内容 ① 原則として、急性期・周手術の患者を1名を受け持つ。 ② 受け持ち患者の情報を収集し、患者の看護過程展開に向けて必要な患者の情報をゴードンの枠組みを用いて整理し、治療経過において患者の健康回復を妨げている課題を抽出するに必要な情報分析を行い、患者の全体像である関連図を作成する。 ①と②については、適宜、所定の記録用紙に記録する。 *カンファレンスについて 臨地実習中にショートカンファレンス、ケースカンファレンス、最終カンファレンスを行う。ショートカンファレンス以外は、臨地実習指導者と教員、学生で行う。カンファレンスのテーマは、前もって教員に連絡しておく。また、運営は、学生が主体となて行う。 【実習終了後のレポート】 ① 課題レポート:「急性期看護の学びと気づき」について受け持ち患者の事例を通してテーマを決めて論述すること。 ※例:「術後患者の疼痛コントロール」「不穏患者の安全な看護援助」 ② 書き方の注意点 ・レポートは、テーマと内容に一貫性のある書き方をすること。 ・レポートの最後には、自己の課題を明らかにすること。 ③ レポートは規定のレポート用紙2枚程度				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	看護学総論、基礎看護学技術方法論で使用するテキスト、授業・演習の資料 看護過程展開に必要なテキスト・資料(解剖生理学、疾病治療論、疾患と看護、看護過程)				
評価方法	実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況について自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。				
実習施設	高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院 独立行政法人 国立病院機構 高知病院				

＜ シラバス＞

授業科目	慢性期看護学実習	授業方法	実習	単位	2単位
開講時期	2年次後期	担当教員	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 慢性的経過をたどる対象を包括的に理解し、健康レベルを的確に判断したうえで、対象のQOLの維持・向上に視点を置いた方法で、個別的な健康課題解決に向けての看護実践を行うことができる基礎能力および態度を養う。 2. 慢性的経過をたどる対象の健康支援を行う看護専門職者として、チームの連携・協働を理解するとともに、慢性期における看護を幅広い視野でとらえることができる。 3. 既習学習において系統的かつ統合的に習得した知識・技術・態度を臨地実習の場面で、効果的に活用できる基礎的能力を養う。				
学習目標	1. 慢性的経過をたどる対象を理解することができる。 2. 慢性的経過をたどる対象の看護に必要な情報収集・アセスメントから全体像を捉え、優先順位を踏まえた課題が抽出でき、個別性のある看護計画の立案・実施・評価ができる。 3. 多様な場面において他者の人権を尊重し、誠実な態度で接することができ、対象とその家族とコミュニケーションを通して、援助的な関係を築くことができる。 4. 看護専門職としてチーム連携・協働を理解し、慢性期における看護を幅広い視野でとらえることができる。 5. 医療に携わるチームの一員として、自分の役割を自覚して責任を果たし、グループワークにおいて、メンバーシップを発揮して積極的に取り組むことができる。				
授業計画	＜2単位 90時間 9日間＞ 学内実習：事前オリエンテーション(0.5日) 施設の説明、留意事項、事前レポート作成、受け持ち患者の病態などを含む自己学習 事前学習 1 成人期・老年期における発達段階の特徴 2 疾患の病態生理、症状、検査、治療 3 慢性疾患をもつ患者の看護 4 病みの軌跡理論に基づいた思考過程 5 基礎看護技術 実習内容 1. 原則として、慢性疾患をもつ患者を1名を受け持つ。 2. 受け持ち患者の情報を収集し、患者の看護過程展開に向けて必要な患者の情報をゴードンの枠組みを用いて整理し、治療経過において患者の健康回復を妨げている課題を抽出するに必要な情報分析を行い、患者の全体像である関連図を作成する。 3. 受け持たせていただいた患者が病気を抱えながら生活している軌跡をインタビューさせていただき、その状況を記録する。病を抱えながら生きている状況について考察する。 4. 適宜、所定の記録用紙に記録する。 *カンファレンスについて 臨地実習中にショートカンファレンス、ケースカンファレンス、最終カンファレンスを行う。ショートカンファレンス以外は、臨地実習指導者と教員、学生で行う。カンファレンスのテーマは、前もって教員に連絡しておく。また、運営は、学生が主体となっていく。				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	看護学総論、基礎看護学技術方法論で使用するテキスト、授業・演習の資料 看護過程展開に必要なテキスト・資料(解剖生理学、疾病治療論、疾患と看護、看護過程)				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況について自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。				
実習施設	高知県立あき総合病院 土佐市立土佐市民病院 医療法人野並会 高知病院				